

いつも紫友会にご支援、協力を有難うございます。皆様、お元気で活躍の事と存じます。お隣様にて協力費・奨学金・奨励基金金の集まりも順調で、特に基金は元教員の方々からの過分なる協力もあり感謝感激です。

さて、今年は「イチネオリンク」が開催されました。日本選手会の活躍が期待されましたが、中でもモケルの村田愛里咲選手は北九州出身、ヒキも勝ち応援にも熱が入りました。人の心はより近い方に同士意識が芽生えるのでしょうか？

かように私達が母校の学生を気にかけるのは道理です。昨年暮れにKテレで若原学長より表彰状を受け取る本学生の豊田まみ子さんが映し出されました。彼女は昨年11月ドイツでのババドミントン世界選手権で見事優勝、金メダルを獲得しました。スゴイオデットウー！思わず拍手でした。豊田まみ子さんの事は筑紫女学園報No.82に掲載されています。

「紫友」は主に紫友会活動、同窓生や先生方の近況等報じていますが、筑紫女学園報は大学のみならず中、高、幼稚園全体の記事が満載です。紫友会総会出席者には学園より配布して頂きますが、私「読みに」と思われる方「紫友」八頁の送付要項通り、懐かしい学園の「今」を「見」下さい。

最後に昨年総会議場で、番に残りました石橋先生の言葉を伝えます。常々気に掛かっていた、三才までは母親が育てるのが良いと云う所謂「蔵神話」について、「いこのよ、気がなくて！」



題字 本学園元顧問
故 干潟 龍祥先生書

筑紫女学園大学
短期大学部同窓会
紫友会事務局
〒818-0192
太宰府市石坂2丁目12-1
筑紫女学園大学・短期大学部内
飛翔会館2F
TEL&FAX (092-929-4603)
〔月～金 10：00～16：00〕
印刷(有)森田印刷所



筑紫女学園大学・短期大学部同窓会
紫友会
会長
石川 昭子

私に手渡されたもの



筑紫女学園大学
人間科学部長
紫友会顧問
中川 正法 先生

紫友や学園報あるいはメディアを通して、存知のように、筑紫女学園大学では東日本大震災以降、春夏年四回にわたり学生・教職員が若手県花巻市を拠点に、ボランティア活動を行っています。紫友会の皆様からも支援金など数々のご支援をいただいております。ことに厚く御礼申し上げます。

「いのちだけでなく、魂も人とのつながりもすべて津波に流されました」という被災者の声を耳に留めながら、厳しい状況下、活動に専念する学生たちの姿は、現地でとても高く評価され、再会を待ち望む方もたくさんおられると現地スタッフから伺っております。

一緒に逃げながらも奥さんだけが津波の犠牲になられた男性の話を、活動報告会で伺いました。奥さんは津波に浸かりながら、印鑑や重要書類が入ったポシットをご主人に投げ渡されたそうです。

話を伺いながら目頭が熱くなる中、ふと以前聞いた言葉が浮かんできました。「私たちは、亡き人からなにか手渡されたものがあるのではないか。その手渡されたものをおして亡き人と出遇い続けることができる」と。

形あるものないもの、私は何を亡き方々から手渡されているだろうかと思ひながら、さて私は何を手渡すことができるのかとも考えています。卒業生の皆様はいかがでしょうか。

第47回紫友会総会御案内

日時／6月14日(土) 11：00～15：00
(受付開始時間 10：30～)

場所／筑紫女学園大学・短期大学部 飛翔会館
太宰府市石坂2-12-1
3Fスクワーヴァティホール・1F学生ホール

会費／3,000円 新卒会員1,000円

第一部／総会 11：00～11：30
会計報告・事業報告・その他

第二部／講演 11：45～12：45

「不如意の世を生きる」

筑紫女学園大学名誉教授 小山 一行 先生

◇小山 一行 先生 プロフィール

1948 熊本市生まれ
1977 東洋大学大学院博士課程仏教
学専攻単位取得満期退学
文学修士(東洋大学)
1988 筑紫女学園大学助教授
1995 同 教授
2006 同 学長
2011 筑紫女学園大学退職
筑紫女学園大学名誉教授
筑紫女学園大学特任教授
2013 武蔵野大学教授
著書／「釈尊の道」「親鸞のいいかったこと」「高僧と韻に聞く」(以上、山喜房仏書林)「新々道しるべしあわせ」(仏教伝道協会)



第三部／懇親会パーティ 会食 13：10～15：00

- ◆当日は学内見学が可能です。(10時～16時)
- ◆西鉄電車ご利用の方は10時から西鉄太宰府駅よりスクールバスを運行しますので、ご利用下さい。

出席予定の先生方(敬称略) 3月末現在の出席予定

理事長	笠 信曉	副 学 長	赤塚 睦男
学 長	若原 道昭	人間科学部長	中川 正法
文学部長	時里 奉明	短期大学部長	速水 良晃
研究科長	小野 望	事務 長	假屋 幸康
事務局 長	金子 修三		

現 教 員	石井 康仁	緒方 知美	浅田 淳一
	高山百合子	大橋 健治	佐々木 浩

旧 教 職 員	名本 幹雄	小山 一行	國枝 鑛造
	橘 英哲	石橋美恵子	松田 昌子
	恵利 勝縁	戸丸 敦子	佐伯 蓉子
	城戸 親男		

*今回当番幹事は短大27、47、48回生、大学22、23回生、大学院5、6期生です。
*当日お車でお越しの方は、学内に駐車できます。

●締切日以降の申し込みおよび変更は紫友会迄
(TEL&FAX092-929-4603)
出席申込を頂いた方で当日連絡なく欠席の場合は、恐れ入りますが後日紫友会宛に会費をお振込み下さい。
振込先 金融機関：ゆうちょ銀行

店 名：一七九 (イチナナキユウ)	店 番：179
預金種目：当座預金	口座番号：0044769
口座名義：筑紫女学園大学・短期大学部同窓会紫友会	

紫友会事務局だより

■第46回紫友会総会報告

第46回紫友会総会は6月16日(日)ホテルオークラ福岡に於いて盛大に開催されました。当日は、晴天に恵まれ、たくさんの同窓生や同窓教員の皆様が、各地より参集頂きました。第一部の総会では、前年度活動報告や予定、会計報告や予算案など各議案が承認されました。第二部は筑紫女学園大学名誉教授、石橋美恵子先生による講演「近頃のフランス女性たち」。フランスの今と世界



の中の日本について、女性の立場を分かりやすく、時にはユーモアを交えながらお話頂きました。久しぶりの先生の講義は卒業生にとって有意義な時間となりました。第三部は懇親パーティ。着席での美味しいコース料理をゆつりと堪能しながら、なつかしい先生、同窓生との楽しい一時を過ごしました。

来年、再来年も沢山の同窓生が笑顔で再会出来ることを願ひながら第46回紫友会総会は盛会にて終了しました。

●総会議決内容

- ◎ 第一号議案
平成24年度活動報告及び平成25年度活動予定
- ◎ 第二号議案
平成24年度会計報告及び平成25年度予算



石橋先生講演

■平成25年度紫友会奨学金・奨励金給付

- 【奨学金】 2名
- 【奨励金】
- 県人会
- アルティメットフリスビー部
- フィルハーモニー管弦楽団



■同窓会をしませんか

総会に併せて、クラス会やサークルのOG会、ゼミ同期会などを開きませんか？紙面を利用して呼びかけるなど、紫友会事務局がお手伝い致します。ご活用頂き、紫友会会員相互の親睦が深まることを期待しています。ご希望がありましたら、事務局までご相談ください。

お 願 い

卒業時の住所データ及び返信葉書に書かれた住所が紫友会送の資料となります。個人情報保護法同窓会活動以外では使用致しません。紫友の届かない同窓生をご存知の方は、事務局までお知らせ頂きますようお願いください。なお、名簿の管理には充分慎重を期しております。紫友会事務局以外から同窓生へ連絡することはありませんので、くれぐれもご注意ください。



さて、皆様の中には、「あの一言」に励まされて、歩を踏み出すことができたという経験された方も多いのではないでしょうか。さて、今年の総会は母校での開催です。皆様のご参加をお待ちしております。

■当番幹事について

平成27年、第48回紫友会総会の当番幹事は短大28回生・大学3回生(1994年卒)、短大48回生・大学23回生・大学院6期生(2014年卒)、及び新卒幹事(2015年卒)の方になります。事務局よりご案内のハガキを送付致しますので幹事会にご出席頂きますようお願い致します。

■役員紹介(平成25年度)

会 長	石川 昭子	家政2
副 会 長	伊佐 元子	家政1
〃	大賀 由加里	日文5
会 計	後藤 安代	英文2
〃	関 江利香	国文27
書 記	酒井 由美子	心理 15
常任幹事	加藤 千代	家政2
〃	森山 クミ子	家政2
〃	仲野 抄子	日文21
〃	阿部 美樹	家政30
〃	矢幡 聡子	家政24
〃	安田 香織	家政20
会計監査	平野 祥子	幼教18
〃	福留 喜久子	英語1



紫友33号「こんにちは」の原稿を募集します。

次号のテーマは「今、学生に戻れたら」を予定しています。原稿は400字程度。また、皆様の近況や思い出等お寄せ下さい。(写真やイラストも可)寄せられた原稿は原則として、返却しません。誌面都合上、全てを掲載できない場合もありますので、ご了承下さい。(メ切26年12月末日)

紫友会会計報告

――平成24年度決算[一般会計]――
自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日

摘 要	
【収入の部】	決算額
前年度繰越金	31,712,092
入会会費 (10,000×776名)	7,760,000
協力費 (177件)	300,000
預金利息	6,907
雑収入	231,200
合 計	40,010,199
【支出の部】	決算額
総会費	1,120,405
印刷製本費	1,384,730
通信費	1,620,810
支払手数料	24,437
会議費	383,620
事務経費	1,721,440
アルパム代	16,000
入学記念品費	363,420
備品費	100,000
慶弔費	413,350
消耗品費	58,496
雑費	32,658
奨学金基金へ繰出	1,000,000
特別会計へ繰出	1,000,000
特別会計へ繰出 (大学開学50周年事業)	1,000,000
次年度繰越金	29,770,833
合 計	40,010,199

――平成24年度決算[特別会計]――
自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日

摘 要	
【収入の部】	決算額
前年度繰越金	4,306,656
一般会計より繰入	1,000,000
一般会計より繰入 (大学開学50周年事業)	1,000,000
預金利息	850
合 計	6,307,506
【支出の部】	決算額
在学生就職活動支援	1,000,052
次年度繰越金	5,307,454
合 計	6,307,506

――平成24年度決算[奨学・奨励金基金]――
自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日

摘 要	
【収入の部】	決算額
前年度繰越金	9,808,694
一般会計より繰入	1,000,000
基金協力費 (94件)	325,000
預金利息	1,875
合 計	11,135,569
【支出の部】	決算額
紫友会学生支援奨学金・奨励金給付	810,260
次年度繰越金	10,325,309
合 計	11,135,569

就職情報誌 in 筑女

～就職活動のために～



及び短大部1年生の全学生に配布しています。この「avenir」は、就職活動中の先輩が後輩の為、微に入り、細に渡っての、実況中継の如き、手書きの貴重な体験談です。業種別採用試験の報告書や過去5年間の就職先一覧など、盛りだくさんの内容は、今年も学生の就職活動に大いに活用されています。



"The timeless treasure of mind."

■文学部・英語学科
教授 C.B.Painter 先生

It's been a long time since we last met – or has it? What is time anyway? The French say “The more things change, the more they stay the same”. Sometimes we go nowhere very fast, chasing our dreams. A lot of time seems to pass and we flop down exhausted from the chase. Sometimes we feel successful, sometimes not. But is this what it's all about? Haphazardly succeeding and failing? There we are, happily cruising along and suddenly the situation changes. An adverse comment is made, or a contrary opinion is presented. We feel uncomfortable. Joy turns into sadness. We thought we had something but now we feel we lost something.

The pattern of ups and downs saps our energy but it can be avoided. The illusion of a permanent self as the centre of everything is a heavy concept to carry around and requires constant maintenance. We get tired because we spend a lot of energy maintaining the illusion. Unfortunately, following this path we are destined to fail, and will never experience lasting success. In the long run, change always undoes our efforts, due to our clinging to the idea of permanence: permanence of self, permanence of things, permanence of relationships and so on. It's pretty obvious that things are always changing but somehow we ignore the fact that it must affect us.

For example, habit of mind demands that we hold on to opinions, sometimes even in the face of contrary evidence. Then someone shows us that what we think is untrue. The comfortable sense of permanence is taken away. Or someone uses something belonging to us without permission. Again we may feel the sense of permanence is lost. Sometimes we lose someone dear to us. At such a time the sense of permanence is powerfully battered.

We don't like to think about these things so much, because they somehow disturb our cosy existence. However, by trying to ignore the reality we are actually ensuring that the ups and downs continue to pervade our lives. In fact, if we accept the reality of impermanence we free ourselves from the tiresome job of maintaining the illusion which causes us the problems. We free up our energy to be creative instead of merely defensive. Where the mind was busy calculating and strategizing, it can now focus without contrivance on whatever presents itself.

We were born with a pristine pure nature. Open to everything, not judging or categorizing. Then, as we grew up, changes in our environment confused us and in reaction we became self-centred and defiled our original purity. As a result we are stuck in the pattern of ups and downs. The way out is simple. Just let go!

Trust in the now, because that is where our life is lived. We cannot live in the past or the future because they are both fictitious and neither of them is permanent. The free mind is uncluttered with fixed concepts and thus abounding with energy to do anything. It is free to engage with whatever is happening in the moment. If you have a room full of things, it is impossible to use that room in a flexible way. However, if you have an empty room you can do so much with it. In the same way, a mind which is full of fixed ideas cannot flexibly think about new things. However, the uncluttered, empty mind is free to handle any thoughts in a flexible, fearless, uninhibited way. It is our true treasure.

I wish you all happiness and an auspicious journey living in the moment.

名前よ立って歩け

■文学部・日本語・日本文学科
教授 松下 博文 先生



昭和五十年の春、琉球大学に入学することになりました。実家の種子島からフェリーで鹿児島へ出て、鹿児島からトカラ列島へ奄美大島―徳之島―沖永良部島―与論島をへて那覇へと南下して行きました。波に酔い、下痢をし、ギラつく太陽を浴びて沖縄を前にして身を海に投じたい衝動に駆られました。入学を拒否したかたのです。同じ南島であるのに「沖縄」そのものへの偏見と

思い出の言葉

■文学部 英語メディア学科
教授 一ノ瀬 元史 先生



今回「あの言、恩師や友人からの思い出の一言」ということで依頼されて、考えてみました。なるほど、私たちは生かされている。本大学で働くようになって、仏教行事等に関わるようになって、仏教関係の先生から私たちは「生かされている」という言葉を聞くにつけ、つくづくそうだと思う。宇宙の中で母と父が出会っている私の私があることを考えると、突

形のあるものは

■文学部・アジア文化学科
准教授 田村史子 先生



私の大学の恩師故小泉文夫師は、西洋音楽を偏重していた第二次大戦後の日本に、世界中の音楽を民族のレベルで同等に聞き比べ、それぞれがいに素晴らしさを紹介した日本における民族音楽学の先駆者である。一九七二年、彼はインドネシアから百年以上も前に作られたジャワの伝統楽器ガムラン（青銅製の打楽器を中心に編成された大合奏）を導入した。その楽器群は私たち学生の魂を揺さぶるほど

の高貴な響きと美しさを持っていた。特に、その編成の中心を成す直径九十センチほどの大ゴングは、現地でもまれな逸品であった。

一九七九年に現地から優れたガムラン奏者を教師として迎え、大学でのガムランの受容は活気を帯びて多くの活動が行われた。そうした折、あることがその大ゴングを学生たちの不注意によって落下させ、びびが入ってしまった。恐る恐る報告に伺った私たちに先生はただ一言だけおっしゃった、「形のあるものはいつか壊れるのです。」と。その後の深い沈黙を、私は今も鮮烈に憶えている。それからわずか三年後、彼は五十五歳の若さで逝ってしまった。その教えを私たちそれぞれに残して。

授には出ていかしつかり勉強しない、人間科学部 人間科学科 人間関係専攻 准教授 徳永 勇 先生

わたしの学生時代、大学は実に自由でおおらかなところであった。出席を採る授業は語学と演習科目のみで、講義科目で出席を採る授業など皆無であった。

Kさんと言えば、いまや理論社会学の大家であるが、ある日、珍しく講義を聴いたところ、「僕の授業には出なくていいからしっかり勉強しなさい」、たしかそんなことを言われた。思えば、授業



にはあまり出なかったが、自らの知的好奇心の趣くままに読書にふけた大学四年間であった。しかし、時代はすっかり変わってしまった。いまや、授業の出欠を採らない教員は、わたしも含めてまずいないだろう。

さて、授業にちゃんと出席するがまったく本を読まないのと、授業にはほとんど出ないが自らの意思で独学に励むのと、はたしてどちらがその人の教養、専門的知識、知的創造力をより深化させることになるのだろうか。

答えは立場上ここでは書けない。



先生こそ男の中の男憎ながら：

■人間科学部・人間科学科 人間形成専攻 准教授 富平 喬 先生



私は小六の時、新設したばかりの学校に通ったのですが、学内の設備が万全ではなく、特に、運動場は小石が多くてトラックのラインもありませんでした。この様な状況の下、当時の担任の先生は生徒に対して毎週土曜日午後にはグラウンド整備の協力者を集いまして。

土曜日午後といえば、授業から解放され一番遊びたい時間帯なのに



で、手を挙げたのは私も含めた男子数名でした。沖縄の灼熱の太陽のもと、先生と小石を拾いロープを釘で地面に打つ作業が延々と続きました。

ある日作業する人が自分だけしかなく、先生と二人で作業開始しましたが、途中スクールで校舎の軒下に避難。そして先生が「今日は終了！」間髪いれず「タカシは男の中の男」と言。先生はおそらく、「一生懸命に手伝う姿を見てそうおっしゃたのだと思います。

その恩師も二年後に病気で他界、生きていればお酒を飲みながら多くを語っていたでしょう。



誘導される偶発

■短期大学部・現代教養学科 講師 大橋 健治 先生

事なのは実行過程で、何とか計画を達成しようと努力する。すると、あたかもその想いに誘導されるがごとくいろいろなチャンスに巡り合う。このチャンスを中期計画に随時取り込み、柔軟に対応していくことが重要だ。ということをお話しています。

転じて、このことは人生訓にもなりうると思った次第です。つまり、「なりたい自分」に歩でも近づこうとして具体的な行動を起こす。すると、自分では思いもしなかったチャンスに巡り合う可能性が増える。そのチャンスを活かしてさらに「なりたい自分」に近づく。

人生は「誘導される偶発」によって形成されていく。嶋口先生から教えをうけた私の信念です。

楽しく学ぶ

■大学・日本語・日本文学科 五回生(一九九六年卒)ダイソン 幸子 岡本



生徒達が学ぶ過程で大切なこと、それは楽しく学ぶこと。教職課程のクラスを取っていた時に、教授がおっしゃっていた言葉です。日本とアメリカの両方で教育に携わり、今まで様々な年齢の生徒たちと接してきましたが、私が常に心に留めている言葉です。国が変わっても同じ、幼児に教える時も大学生に教える時も同じです。今では学ぶ手段も多様化して

り、インターネットで検索すれば教材が何でも手に入ります。生徒たちが興味を持って日本語をもっと勉強したいと思えるように、教える側も常に新しいものを探して勉強し続けなければなりません。時代はめまぐるしく変わっています。

年を重ねた今でも「楽しく学ぶ」ことを忘れずに、生涯学び続けていきたいです。興味のあることにはどんどん挑戦し、いつまでも成長し続けられたら素敵だなと思います。楽しく学ぶことは、楽しく生きていく事に繋がると思っています。私の教育の基本であり、これからの人生の柱になるであろうこの言葉を、大切にしていきたいです。

原典を辿る

■大学院・人間科学研究科 一回生(二〇〇九年卒) 中山 優文字



小山二行先生は当時の学長であり、私の指導教官と多忙極める中で懇切丁寧な御指導頂いた恩師の一言は、「原典を辿る」ことでした。メディアから簡単に「註」が引用出来る昨今に「孫引き」は控えるようにと崇高な研究姿勢を教えて頂きました。

研究テーマ『喫茶養生記』の原典を辿るその一歩は禅祖栄西の原典であり、二号館図書館所

蔵の『元亨釈書』『大日本仏教全書』の漢籍から、茶祖栄西の原典は四号館にて『茶経』『大観茶論』に調査した諸々も含めて筑女の図書館が「原典を辿る」宝庫であったことに誇りを感じています。

大学院生の年齢層は二十代から七十年代迄の中で繋がりを目標に毎年七月七日に七夕茶会を茶室「悦目亭」にて有志で開催しています。

大学院修了一期生として筑紫女学園百年の礎の上に漸く十年を刻もうとしている大学院に発信出来ることは何かを考えています。

愚直であれ

■短期大学部・幼児教育科 講師 飯塚 恭一郎 先生



大学卒業前に、ある先生が卒業生全員に向けて送ってくれた言葉です。教員養成系の大学でしたので、わたしを含め大半の同級生が教育現場に出て行くことになっていました。「教師たるもの愚直であれ」ということです。当時はこの言葉に感銘を受けたとかに残ったというほどではありませんでした。しかし社会人になり仕事をするにつれ、この言葉の意味がしみじみわかってきました。折に触れこの「愚直であれ」の言葉が思い出され

仕事は自分の信じた道を地道に続けるからこそ、結果が後からついてくるといふことの方が多くに思えます。その姿勢を愚直に続けていくことによつて初めて周囲からの信用も得られ、自分も含めた周囲の環境が良くなるようになっていきます。特に教職はそういう職場だと思っています。人との関係性を何よりも大事にしていかなければならない職場ですから。

現代は「早く」「力強く」「確実に」「大きな」結果を出していくことが求められることが多いのですが、その勢いに流されることなく自分の足と自分のペースで歩んでいきたいものだと思います。

それが、たとえ愚かに見えても真っ直ぐに、です。

今あるこの幸せを感じて生きる

■大学・英語学科
二十回生(二〇三年卒) 山口 恵美



筑紫女学園大学を卒業し、私は航空業界に就職し、現在、空の上で仕事をしております。

入社後の専門訓練は予想以上に厳しいもので座学と実践、テストの繰り返しでした。そんな厳しい訓練で心の支えになってくれたのが同期でした。インストラクターから厳しい指導を受けた時は励まし合い、何でも言い合える関係を築くことが出来ました。訓練



センターを卒業する時は皆で泣きました。
実際のフライトでは、多い時は日に五便とハードなフライトですが、一日に何百人というお客様に出会い、エネルギーを戴いております。先輩から厳しい指導を受け、自分自身の成長の為に考えることが出来ました。これは母の「今あることの幸せを感じて生きる」という言葉のおかげでした。
私に関わる全ての方への感謝の心を忘れず、これからも日々ステップアップしていきたいです。

友人からの一言

■大学・英語メディア学科
二十回生(二〇三年卒) 鹿毛 文香



私は現在、銀行員として毎日忙しいながらも充実した日々を過ごしていますが、就職活動を始めた頃は自分が銀行員になるなんて想像もしていませんでした。
就職活動中は考えられなくらいの企業選考に挑みましたが、全くといっていいほどの選考に進めないう日々でした。「もう私はこの企業からも必要とされていない。もう就職活動なんてやめてしまいたい。また落ちたらどうしよう。」と言

う私に、友人が「落ちる前に落ちることを考えてどうするの。もっと前向きな気持ちで挑まない」と励ましてくれました。そして挑んだ現在働いている銀行。自分でも驚いてしまうほど順調に進み内定を頂くことが出来ました。正直、毎日のように仕事で壁にぶつかっています。何度も失敗をし、落ち込んでしまいうこともあります。しかし、その度に在学中に友人に言われた言を思い出そうにしています。不思議なもので、頑張ろうと思えてしまいます。
仕事を始めて二年弱、失敗すること心配するより、何事も前向きに考えるようにしたことで、充実した日々を送れるのだと思います。あの言葉をかけてくれた友人に感謝しながら、今日も頑張っています。

今の君は全力か

■大学・アジア文化学科
二十回生(二〇三年卒) 嵐末 智子



筑紫女学園大学を卒業し、東京で警察官に就職しました。小さい頃からの夢である、警察官という職に就く事ができ、嬉しい気持ちの反面、本当にやていけるのか、生まれ育った福岡を離れて東京で人生生活していけるのか、など不安だらけの中、東京に上京しました。
警察官の試験に合格すると、まず警察学校に入校します。そこで半年間、警察官としての基本を学びます。やはり警察官としてこれからやて行くと

にも、学校の中では様々な規律もあり、厳しく指導されます。そんな学校生活の中、仲間とともに厳しい訓練を受けている時に「今の君は全力か」という言葉をかけられました。「何事にも全力で取り組み、一生懸命やていれば、どこかで必ず誰かが見ていてくれる。そうすれば自分が困った時には助けてくれる。やりたい道も開けてくる。」きつく、つらい中でも全力で取り組んでいれば結果は出てくる。逆にやてきことを忘れればその結果も自分に返ってくる。
警察学校を卒業してもうすぐ一年になります。まだまだ未熟で、不安なところばかりですが、これから先になにに壁にぶち当たった時には、この言葉を思い出して、全力で一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

一生の宝物

■文学部・人間福祉学科
十四回生(二〇五年卒) 玉城 康子(主)



筑紫女学園大学では、福祉の仕事に携わていきたいという思いを持ち、そこで出会った友人と将来の夢を語り合いながら過ごしてきました。同じ福祉の道に進む為に同様の考えを持つてこの大学に集まった中で出会った友人は、これらからも大切にしたい一生の宝です。
ある時辛い出来事があり何事にも悲観的になっていた時、そ



な私を励ます為に友人が誕生日にサプライズをして喜ばせてくれました。そしてこれから先いろいろな思いをして生きていくと思うけど、そんな時に支え合う友人でいようと頑張りました。元気を出してほしいという思い、その二つの言葉が涙が出るほど嬉しかったです。
今では福祉関係の仕事に携わり日々充実した毎日を送っています。ですが、仕事やプライベートで悩んだ時にはお互いに励まし合い、更なる自己の向上に努めています。

山のお寺で思うこと

■短期大学・国文科
十回生(二九七六年卒) 横井 洋子(石井)



昨年、念願の西本願寺・教師資格を取得致しました。鹿児島の山間部の寺院で、住職の夫と共に伝道布教に携わるためです。
教師とは、住職就任の資格です。葬儀や法事のお勤めの他、ご法話を書いたり、子供達の前でお話をさせて頂くようになりました。
卒業して三十八年、私を支えてくれたのは筑女で学んだこと



です。松尾博仁先生の仏教学、国文科の上野先生、市場先生、三方先生等先生方にご指導頂いたことは、今も私の中に遺っており、お陰様でご法話を書くとき、学びが生かされるように感じられます。同時に伝えることの難しさを痛感します。
宗教離れと言われる昨今、若い世代にどう仏教を伝えるか、私たちに課せられた責任は重い、自分にできることは何かと。
「心」の教育を実践する筑女に期待するところは大きいものがあります。

「継続は力なり」と伝えたい

■短期大学・英文科
二十回生(九八七年卒) 大中 昌理子(原口)



初夏の頃、「紫友」が届くとまた一季節が巡ってきたと感じます。結婚を機に熊本に移り、今は夫の転勤で初めて九州を離れ、静岡での生活が始まりました。福岡からますます遠くなりましたが、なおさら母校からの便りは嬉しいものです。
筑女の頃、フランス語に四苦八苦し、英文タイプ部の部長になったものの、自分の不器用さに辟易

し、授業時間が多いことほしつ、食堂で友人達と談笑した日々が蘇ります。
今二人の子ども達があの頃の自分の年齢になろうとしています。「継続は力なり」先生の言葉で、夢は叶えるもの、努力を続ける事が一番の近道だと、今も心に刻んでいます。毎日欠かさず聴いたラジオ英会話。多量のテキストの山は、就職時の面接や資格試験の際の、大きな自信に繋がりました。
今は十数年日課としていたウォーキングが健康美の秘訣かも(笑)。いつの日か娘たちを連れてかつて学んだ懐かしのキャンパスを訪れたいと思っています。

女子の力

■短期大学・家政科
二回生(九八八年卒) 樋口 歌代子(西川)



カナダに来て三十年になろうとしています。いろいろな体験を通して日本を外から見えます、女子の力を活用してないなあ、もったいないなあと思われてしかたありません。仕事を持ちながら妻として母として活躍しているカナダの女性の多いこと。カナダの男性はたしかにそれをサポートしているようですが・・・。
人口の老齢化による労働力不足、ハイ女性の出番です。少子化問題、当然女性の出番です。

忘れられない恩師の一言

■短期大学・幼児教育科
十八回生(九八四年卒) 平野 登子(寺田)



「十九、二十(はたち)は、おばんのはしり」当時、美術の担任だった小田部泰久先生の忘れられない衝撃的な一言です。ユーモアのセンスに溢れた優しい先生でしたが、学生の作品に対する批評は厳しく、直球で自分の弱点を指摘され、落ち込みながらも的を得た先生の言葉に納得し、時には笑ってしまう事もしばしば。

学生の頃は、うら若き乙女におばんなて失礼な一と思ていましたが、卒業して三十年。今思うと「光陰矢の如し・月日の経つのはあつという間で二度と戻ってこないのだから無為に送るべきではない。」と教えてくださったいたのではないかと仕事や家事、子育ての中でよく思い出される言葉となっています。天国から「ほら、そうやったろうが?頑張りな!」といつまでも笑顔で卒業生を励ましてくださっている様な気がします。



◆一年一度お世話になった懐かしい先生方にお会い出来ることを楽しみにしています。
大学院(二期生)二〇〇九年卒
◆来年当番だということを知ら身の引き締まる思いです。こんなおばさんになってもまだ大学で学びたいと憧れを抱いています。日々前進、続ける「筑女生」でいたいものです。
大学(日本語日本文学科)回生(二九九年卒)
◆入行五年目に突入し転職も経験しました。後輩も増え、ますます責任も増え、がんばっています。同期に短大出身の子がいて仲良くしています。筑女が取り持「縁」を感じています。
大学(英語学)十回生(二〇〇九年卒)

◆卒業してから二十五年が過ぎました。当時はクルクルと無かったですが冬の寒い頃坂道を登って登校していたのを思い出します。よく雪が降っていました。(楽しい思い出です)。在校生の方々も楽しい記憶を残す学生ライフを送ってほしいです。
短大(英文科)十回生(二九八八年卒)
◆娘が女学部英語学科に入学致しました。三十一一年の年を経てもまだ娘が後輩になるとは思ってもみませんでした。母娘で「縁が」といいた事、嬉しく感じています。
短大(家政科)十回生(二九八八年卒)

◆昨年結婚し、今年、女の子を出産しました。大学時代に学習したこと、身を持って感じています。発達臨床心理学などことは、仕事においても家庭においても役立てており、もと深く学びたいと思っています。
大学(発達臨床心理学)十五回生(二〇〇六年卒)
◆紫友を手にし高尾山の青々とした初夏の風情を懐かしく思う季節となりました。老眼鏡必須の読者となりましたが、恩師小野先生のメッセージなどうれしく拝読いたしました。
短大(国文科)十四回生(二九八〇年卒)
◆石橋美恵子先生の「愛賞、おめでとう」です。三十八年前クラスの先生でありお写真を見ても、全とお愛おしく先生にもクラスの人にもお会いしたです。科は違っても長崎、筑女卒の人たちとも会っています。
短大(英文科)九回生(二九七五年卒)

ご縁

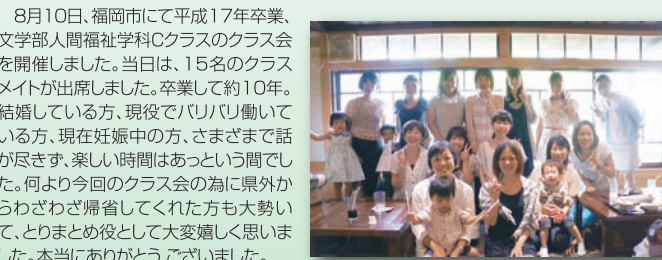
■短期大学部・現代教養学科
四十八回生(二〇二年卒) 山下 真実



筑紫女学園を卒業し、社会人になつてもうすぐ三年目になります。私は建設業界に就職し、経理事務を担当しています。会社のお金を扱う仕事で、金額もとても大きい為、一円単位まで細心の注意を払つて業務を行わなければなりません。性分がとても大雑把な私なので、苦労が絶えませんが、安心して仕事を任せてもらえるよう、日々精進しております。
社会人になつて、たくさん壁に

ぶつかりました。それでも、挫けずに頑張り続けることができるのは、今の会社に内定を頂いた時に就職支援課の方が言つて下さった「ご縁がありますね」という一言が心に残っているからです。確かに様々な会社がある中で今の会社に内定を頂いた事、数ある部署の中でも経理部に配属されたのは私が商業高校出身だったのが理由である事など、色々な巡り合わせを通して繋がった「ご縁」なのです。
私が今までの人生で出会った全ての方々、そして、これから出会う方何かが「ご縁で繋がっている方です。その全てのご縁を大切に、感謝の気持ちで忘れずに、笑顔溢れる素敵な人生を歩んでいきたいと思つております。

クラス会をしました



8月10日、福岡市にて平成17年卒業、文学部人間福祉学科のクラス会を開催しました。当日は、15名のクラスメイトが出席しました。卒業して約10年。結婚している方、現役でバリバリ働いている方、現在妊娠中の方、さまざま話が尽きず、楽しい時間はあっという間でした。何より今回のクラス会の為に県外からわざわざ帰省してくれた方も大勢いて、とりまとめ役として大変嬉しく思いました。本当にありがとうございました。

50歳の同窓会



A クラス



B クラス



C クラス

平成25年10月26日短大幼児教育科18回生の同窓会を開催しました。数年前より紫友会総会で再会した同窓生が幹事となり、学年での同窓会を企画。紫友会事務局にご協力を頂いて同窓生の皆様をお誘い致しました。当日は、恵利勝縁先生・佐伯容子先生と40名の同窓生が集い30年振りの再会にあちこちで賑やかな歓声が...学生時代の思い出や近況を語り合いながら楽しい時はあっという間に過ぎ、5年後の再会を約束し合ったのでした。

会費の一部を奨学金基金にご寄付頂きました！ありがとうございました。

◆福岡在住の友人の中には娘が筑女を卒業したという話を聞きます。二世、三世代と通わたい学校として今後時代に添った教育がキャンパスを提供しています。短大(幼児教育科)十回生(二九四年卒)
◆短大(幼児教育科)十回生(二九四年卒)先日の額ですが奨学金、奨励金基金振込させていただきます。学生の為ですが長く続けたいと思います。
短大(幼児教育科)十回生(二九七年卒)

